

病害虫発生予察特殊報 第 2 号

病 害 名 レタス黄化えそ病
病原ウイルス名 トマト黄化えそウイルス
(*Tomato spotted wilt virus* : TSWV)

1 発生経過

平成 12 年 9 月、東信地区のレタス栽培ほ場で、葉にえそ斑を生じるウイルス病と見られる障害が発生し、病徴から TSWV による黄化えそ病と疑われた。野菜花き試験場で TSWV-0 のモノクローナル抗体を用いた ELISA 法で検定した結果、強い陽性反応を示し本病であることが明らかとなった。

TSWV によるレタス黄化えそ病の発生は、平成 7 年に富山県のレタスで、平成 9 年に静岡県のリーフレタスで確認されている。本県で確認されたのはこれが初めてである。

なお、本県ではこれまでにキク、トマト、スターチス、トルコギキョウ及びピーマンで本ウイルスによる被害を確認している。

2 発生生態

本ウイルス病の発生については、すでに平成 9 年の病害虫発生予察特殊報第 2 号「キクえそ病」で報告した。アザミウマ類によって永続伝搬されるウイルスであるが、経卵伝染はしない。また、種子伝染、土壌伝染はしないが、接触伝染する可能性がある。

宿主範囲は広く、約 50 科 500 種に及ぶ。世界的には、トマト、ピーマン、レタス、ラッカセイ、タバコで大きな被害をもたらしている。

3 発生状況

今回発生が確認されたのは隣接した 2 ほ場で、発生面積は約 20 a。発生はほ場全体で見られ、発生の激しい場所では本病によると考えられる欠株や萎凋株が見られた。

発病は結球開始期から収穫期まで、各生育段階で見られた。

4 病徴と診断

発病した株は葉が黄化し、やがてえそ斑を生じる。えそ斑はしだいに拡大する。発病株は生育が抑制され、発病が激しいと萎凋枯死する場合もある。えそ斑は結球内部にもみられる。

5 防除対策

- (1) 育苗期間中からアザミウマ類の防除を徹底する。
- (2) 発病株は二次伝染源となるので、すみやかに抜き取り処分する。
- (3) 雑草は本ウイルスの重要な伝染源となるため、育苗ハウスやほ場及びその周辺部の除草を徹底する。